



第216回ギャラリー展

変窯 鉢と壺 展

平成27年6月22日～7月18日まで

「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録が現実味をおびてきました。

特に大牟田・荒尾は三池炭鉱跡などの構成資産で登録を目指しています。

朝鮮半島出身者の強制労働がおこなわれたことなどで反対もありましたが登録に協力していくことになりました。

日韓国交50年、ぎくしゃくした両国の関係もこれを機会に友好ムードが醸し出されることを願うものです。

第216回ギャラリー展は、変窯・鉢と壺展を開催します。
組み物鉢と壺を集めてみました。

組み物5枚は古小代の幕末・明治頃に作られた藁釉白小代作品です。
小代作品では藁釉白作品は珍しい作品といわれています。

もう一方の組み物6枚は研究心旺盛な岱平窯の坂井博樹さんが他の5つの窯元から粘土を分けてもらい作成したものです。

作品は6枚とも釉薬は同じもの、そして同じ窯において焼成したものです。

粘土によって微妙な色合いが生まれるのと焼成時の火の回りでさらに変化が加わるなど焼き物に尽きない魅力が生まれることを証明してくれています。

素材の組み合わせ、焼成時の窯内の変化は窯出ししてみないと結果が分からないという不安な中、狙い通り焼きあがった時の達成感は疲れが快感に代わる最高の至福の時です。
収集は手にした一個の作品から物語をききそして惚れ込んでいくものです。

それぞれの作品から物語を聞いてください。
こころ豊かになることうけ合いです。

第216回ギャラリー展

変窯 鉢と壺 展

平成27年6月22日～7月18日まで